

令和6年度全国学力・学習状況調査の目的や実施内容

本調査は、文部科学省が学校の設置者（教育委員会、学校法人等）の協力を得て実施するものです。

- 調査の目的
- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
 - ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

調査内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学）

出題範囲は、調査する学年の全学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

時間割

◎小学校

1 時限目	2 時限目	
国語（45分）	算数（45分）	児童質問紙（20～40分程度）

◎中学校（生徒質問紙は、2 時間目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施）

1 時限目	2 時限目	
国語（50分）	数学（50分）	生徒質問紙（20～45分程度）

令和6年度全国学力・学習状況調査学力結果

※ 全国平均正答率等との比較

【小学校】

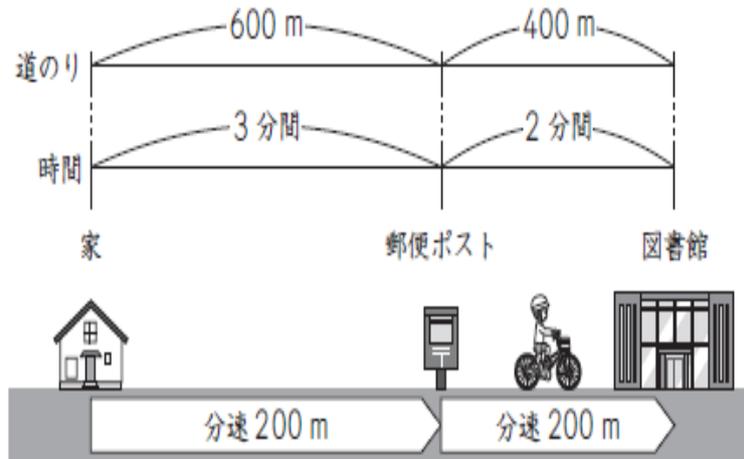
	正答率	よかったところ	課題であるところ
国語	やや高い	[書くこと] 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること	[読むこと] 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること
算数	やや高い	[数と計算] 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること	[変化と関係] 速さの意味について理解していること

【中学校】

	正答率	よかったところ	課題であるところ
国語	やや低い	[話すこと・聞くこと] 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること	[読むこと] 目的に応じて必要な情報に着目して要約すること
数学	低い	[数と式] 等式を目的に応じて変形すること	[図形] 筋道を立てて考え、証明すること

■ 課題となる問題「変化と関係」(小学校算数)

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から郵便ポストの前を通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600 mで、3分間かかり、速さは分速200 mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400 mで、2分間かかり、速さは分速200 mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。

答えを書きましょう。

■ 課題となる問題「図形の証明」(中学校数学)

- 9 線分ABがあります。線分AB上に点Cをとり、AC、CBをそれぞれ1辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとします。
 桃子さんは次の図1のように点Cをとり、健太さんは次の図2のように線分ABの midpoint に点Cをとりました。

図1

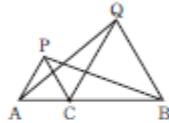
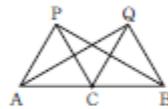
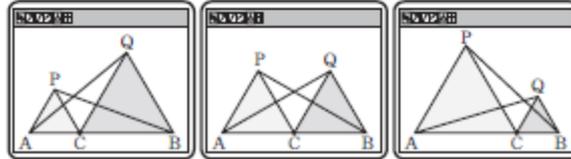


図2



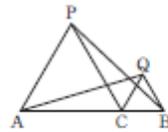
二人は図1と図2を観察し、線分や角についていえることがないか気になりました。そこで、コンピュータを使って点Cを動かしながら調べました。



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

- (1) 桃子さんは、コンピュータを使って調べたことから、点Cが線分AB上のどこにあっても、 $AQ = PB$ になると予想しました。

桃子さんの予想した $AQ = PB$ がいつでも成り立つことは、 $\triangle QAC = \triangle BPC$ を示すことで証明できます。 $AQ = PB$ になることの証明を完成しなさい。



証明

$\triangle QAC$ と $\triangle BPC$ において、



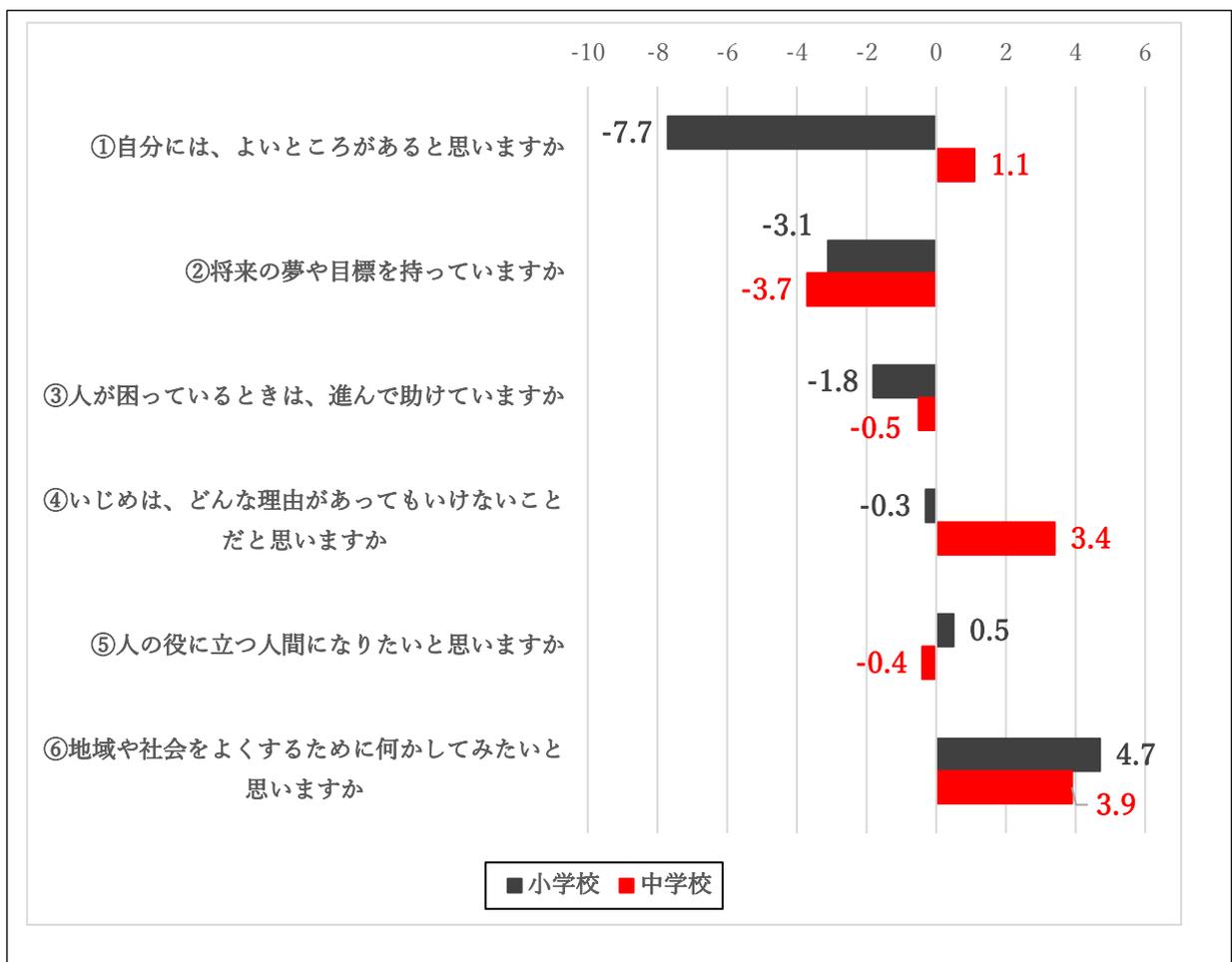
合同な図形の対応する辺は等しいから、
 $AQ = PB$

令和6年度全国学力・学習状況調査質問紙全国平均との比較

※ 全国平均を0として全国の平均パーセントとの差を提示

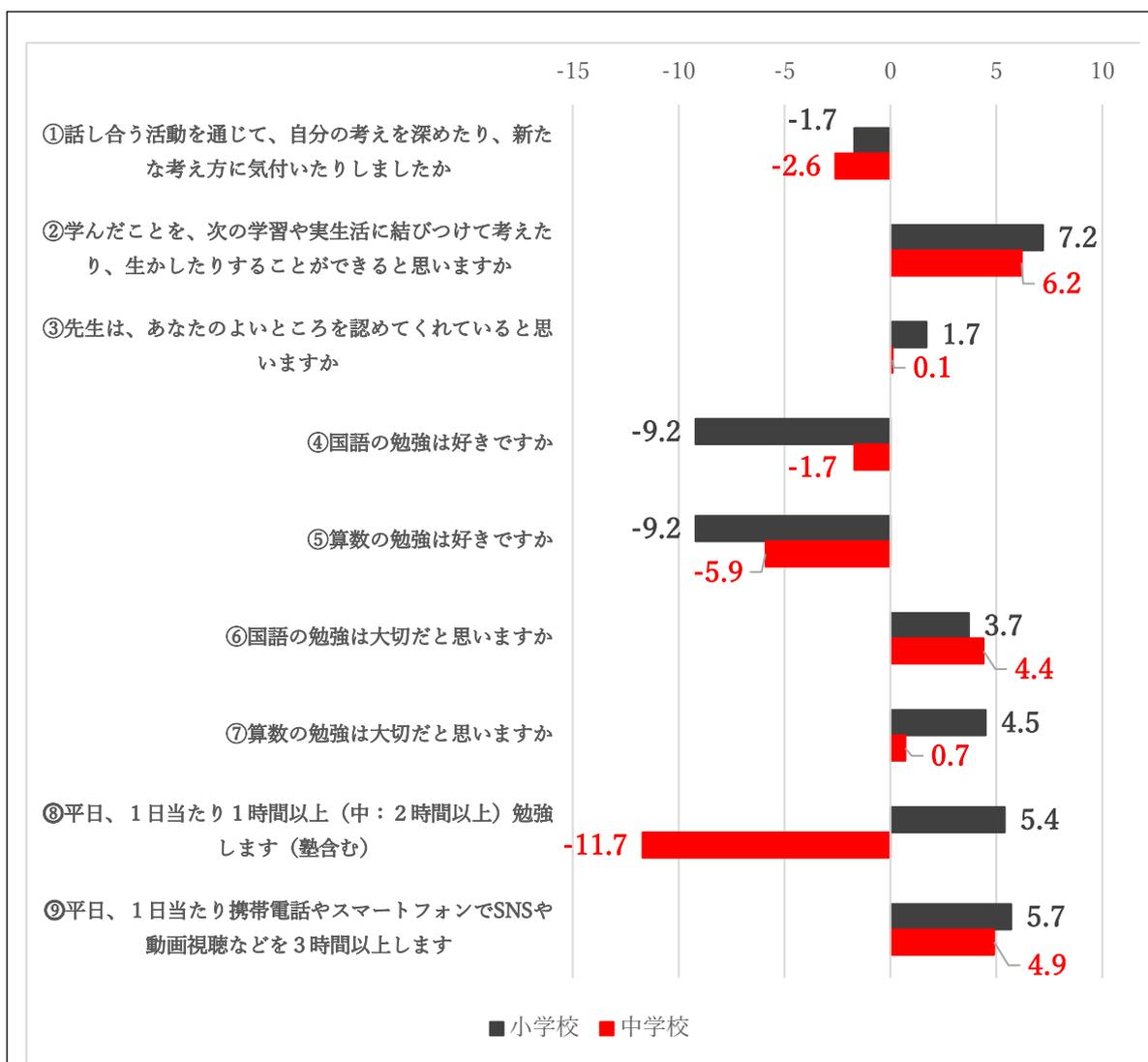
※ 質問紙67項目程度の中から抜粋

【自分自身に関すること】



①②の項目は「自分に自信をもって、自分の夢や目標に向かう」資質を問うもので「継続して学ぼうとする意欲」に関わるものです。全国平均値と比較すると低い数値となっています。③から⑤の質問項目は「人間性や社会性」に関する内容です。全国平均値より若干低い数値がありますが、ほぼ同じ数値です。⑥の「地域への貢献意欲」については、全国の平均値より高い数値となっています。

【学習に関すること】



①から③の学校における学習活動についての項目内容については、①の「話し合い活動を通しての新たな考えや気付きに」については、若干全国平均値より低いものの「学んだことを実生活に結び付けたり次の学習時間に生かしたりすること」、「先生が認めてくれること」については、全国平均値より高い数値です。

④から⑦は国語科、算数（数学科）に関する内容です。「両教科が好き」という項目は、全国平均値よりも低い数値ですが、「教科の大切さ」については、全国より高い数値となっています。

⑧⑨は、家庭での過ごし方（家庭学習・SNS等の使用時間）の内容に関する項目です。平日の家庭学習時間（小学校1時間以上・中学校2時間以上）では、小学生が全国平均値より高く、中学生はかなり低い数値となっています。

これからの取組

組む姿勢や態度、人間性や社会性に関する項目では、全国の平均値とほぼ同じか上回っています。

しかし、SNS やスマートフォンの使用時間は全国の平均値より高く、自主的な家庭学習の時間が全国の平均値より低くなっています。

そこで、学力の向上を図るために次のような取組を今後実施していきます。

- ① 小学校と中学校とで補充学習の実施や学習指導の統一化を図る。
また、効果的な ICT の活用により学習意欲を高めたり、個に応じた指導の充実を図ったりする。
- ② 学力を向上させる基盤となる児童生徒の健全な育成を図る学級活動や道徳及び学校行事の質を高め、児童生徒間、児童生徒と担任との良好な人間関係を築く。
- ③ 学校からの毎日の適度な課題の提示と家庭学習の習慣化を図る学校と保護者との連携を図る。

今後も、児童生徒の自己実現に向けて、今までの取組を継続・徹底していきます。